

全棟ウォールスタットでシミュレーション

耐震性能を視覚で訴求

七呂建設

鹿児島県No.1ビルダーの七呂建設（鹿児島市、七呂恵介社長）は、全棟でウォールスタットを使った耐震シミュレーションを実施することを明らかにした。耐震シミュレーションソフトのウォールスタットへの関心は高まっているものの、標準化して取り組む住宅会社はまだ少数程度。七呂社長は「以前から全棟許容応力度計算の実施を検討していたが、顧客には壁量計算と許容応力度計算の違いが分かりにくい。ウォールスタットは視覚に訴えられ、シミュレーション結果と実大振動実験の結果がほぼ同じなど信じやすい性が高い。当社は検構造用集成材を柱に、制震装置ミッドイェを標準採用しているが、こうした性能向上がウォールスタットで評価される」と話している。

同社の2021年400棟を受注し、コロナ禍でも集客に全く困り期間は着工335棟、ナ禍でも前年を上回っている「と好評だ。9月受注分からウー、8、9月だけで1人事部長代理は「コロナ禍でも集客に全く困り期間は着工335棟、ナ禍でも前年を上回っている「と好評だ。9月受注分からウー、8、9月だけで1人事部長代理は「コロナ

シミュレーションを12件実施した。

導入に際して、ウォールスタットに対応したパラメータが登録されているかなど自社の標準仕様を見直した。ウォールスタット

は、中川貴文京都大学



七呂 社長

准教授が開発した倒壊シミュレーションソフトで、耐震性能見える化協会などを通じて普及活動が行われている。

同社は主力の「ゼロエネ」仕様では、ZEH基準で、金物工法

（ピン工法）、柱、梁には松とRウッドのハイブリッド構造用集成材、MDF耐力壁、制震工法としてウォールスタットのパラメータを提供しているミッドイェを採用した。

営業は顧客との間取りプランの打ち合わせをウォークインホームで行い、「間取り確定承諾書」で確認したうえでウォールスタットによる耐震シミュレーションを実施。大地震時に倒壊の可能性がある場合、構造上の弱点などを改善する提案を作成する。筋違の追加などで対応できる場合は、改善提案を推奨し、柱位置や壁の追加など間取りに影響を与

えるような場合は施主と再度打ち合わせする。「命より大切なプランはない」（中金部長代理）と性能重視で提案を行うという。

そのうえでアーキテクトで設計を進める。設計課では、ウォールスタットの耐震シミュレーションを導入してから、自分の設計で倒壊させたくないという意識が強まり、構造を以前より意識するようになったという。

同社は鹿児島県を中心に18カ所のモデルハウスを持つ。都城市（宮崎県）、熊本にも店舗を出し、3年後には九州全域へ事業を拡大、鹿児島では都市部の複合開発事業にも

取り組んでいく考え。また22年春オープン計画で、鹿児島市内に限研吾氏の設計による3階建てビルの建設の計画もある。同ビルには、3層吹き抜けのブックカフェやビル建設のオーナー向けのサロンのなどを設ける計画もある。